

### ■クラスタシステムと高信頼FTモデル・HAモデルの比較

	クラスタシステム	FTモデル	HAモデル
冗長化の範囲	◎ ハードウェア/ソフトウェアを含めた高可用性を実現	○ ハードウェアのみ	←
障害時の業務切り替え時間	△ 数分～数10分	◎ ほぼ0(ゼロ)	○ 数分～十数分 (切替(マイグレーション)の時間)
ミドルウェア、アプリの対応	△ クラスタ対応が必要	◎ 不要 (ソフトウェア障害対応は不可)	←
最大物理CPU数	◎ 4 (通常サーバと同等)	△ 1 (デュアルCPU、業務用は1コア)	○ 2 (クアッドコアCPU、業務用は7コア)
性能	◎ 通常のサーバと同等 (運用待機)	△ 通常のサーバよりも低下	○ 通常のサーバよりも若干低下
導入の容易さ	△ 専門的な技術が必要	◎ 容易 (ブレインストール済み)	←
システム設計	△ 専門的な技術が必要	◎ やさしい	○ やさしい (切替(マイグレーション)の設計が必要)
保守	△ サポート契約必須。障害時の復旧作業は、運用管理者の対応も必要	◎ ハードウェア障害に対してはハードウェア保守員が対応	←
費用	△ 高価 (約690万円～)	◎ クラスタに比べて安価 (約280万円～)	○ クラスタに比べて安価 (約285万円～)